



名張市学校図書館だより 中学校版 平成二十八年春休み直前号 発行：教育センター

# 卒業・進級おめでとう！

もうすぐ春休みですね！三年生のみなさん、卒業おめでとうございます。一・二年生のみなさん、進級おめでとうございます。

今年一年たくさん本を読みましたか？中学校は勉強や部活などで忙しいので、なかなか図書室・図書館へ足を運ぶチャンスがなかったと思いますが、何とか時間を見つけて、本を読んで楽しい時間を過ごしてほしいと思います。

ちょっとした時間を使って読書！移動の時間や待ち時間を上手く使おう！高校生になって電車通学になれば、その時間も使えるね！



本は、空いている少しの時間でも読めます。電車の中や病院の待合室で…。スマホやタブレットを閉じて本を開いてみましょう。

## 「春」がテーマの本を紹介します。

春が来て暖かくなると、なんだかウキウキしてきますね。そんな春をテーマにした本を紹介します。

**【さくらんぼ】** 作：今江<sup>いまえ</sup>祥智<sup>よしとち</sup> 絵：宇野<sup>うの</sup>亜喜良<sup>あきら</sup> 発行：フェリシモ出版



落語のお話です。「さくらんぼ」は上方落語での名称で、江戸落語では「頭山<sup>あたまやま</sup>」になります。大好物のさくらんぼをあわてて食べて種まで飲み込んでしまったよっさん。なんと、体の中で種から芽が出て、頭から桜の木が生えてきました。春にはきれいな桜が咲き、木の下で近所の人たちがお花見でどんちゃんさわぎ。非現実的でありながら、臨場感あふれる描写がいっぱいです。※ドイツのお話『ほらふき男爵の冒険』(ビュルガー：岩波書店他)にも、似たような話があります。

**【また次の春へ】** 作：重松<sup>しげまつ</sup>清<sup>きよし</sup> 発行：扶桑社



東日本大震災を題材に、7つの短編が収められています。震災からこの3月で5年になり、忘れたわけではないのに、日に日に記憶が薄れていってしまいがちです。当たり前な明日が来ると思っていたのに、それが来なかった。家族が見つからず、『また』次の春へ…。読んだ後はもやし入りの豚汁が食べたくなります。

**【櫻の樹の下には】** 作：梶井<sup>かじい</sup>基次郎<sup>もとじろう</sup> 掲載：青空文庫



『櫻の樹の下には屍体が埋まっている！』という有名な書き出しで始まるこの話。実はたった原稿用紙5枚分の長さしかありません。しかも、掲載された本が少なく、現在は手に入りにくい状態です。そこで、今はインターネットの『青空文庫』でも読めますので、ちょっと気になった人はぜひ全部読んでみてください。(※『青空文庫』とは、著作権の切れた作品などを集めたインターネット上の図書館です。)

今回のおしらせ

●春の本紹介

●卒業するあなたへ

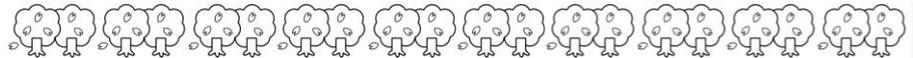


# 「卒業するあなた」に贈る本

おく



いよいよ卒業シーズンですね。3年生だけでなく、他の学年の皆さんもそれぞれの学年を「卒業」しますね。もしかしたら、「すぐあきらめてしまう『僕』」や「つついおこってしまう『私』」から卒業できる人もいるかもしれません。そんな、古い自分を卒業して、新しい自分に出会えるかもしれない「あなた」に贈る本です。



**【はじまりの日】** 作ボブ・ディラン 絵：ポール・ジャズ 発行：岩崎書店  
『きみが手をのばせば しあわせにとどきますように』で始まるこの絵本。「ボブ・ディラン」という人を知っていますか？アメリカの有名な歌手です。この本は、名曲といわれる『Forever Young』の歌詞に絵をつけたものです。この曲は、彼が息子のために作った曲だそうですが、『さあ、曲を作るぞ！』と思って作ったのではなく、自然に浮かんできて、そのまま出来上がったそうです。



**【ともだちのしるしだよ】** 作カティ・リッ・ウィリアムズ / カドゥ・モハット 絵：ダグ・チャグ 発行：岩崎書店  
難民キャンプで暮らすリナ。救援活動の人が持ってきた古着の中から、真新しいサンダルを片方だけ見つけます。もう片方はリナより細い女の子がはいていました。翌日、二人はサンダルを毎日交代ではなくことにします。『ともだちのしるし』として。そして、二人で大事にサンダルをはいていましたが、ある日、リナがアメリカに移住できることになりました。リナは、『ともだちのしるし』としてサンダルを両方あげようとしますが…。



**【壁を破る言葉】** 作：岡本 太郎 発行：イースト・プレス

『出口を探している、すべての人へ』と銘打ったこの本、芸術家の岡本太郎さんの言葉を集めた本です。岡本太郎さんといえば『太陽の塔』が有名ですね。芸術活動だけでなく、テレビのバラエティ番組にも出演していました。みなさんのおじいさんやおばあさんなら覚えているかもしれませんね。作品も、芸術家として常識にとらわれなかった岡本太郎さんの言葉が、『自由』『芸術』『人間』の3つに分けて紹介されています。

学校司書  
藤田の  
編集後記

卒業にかぎらず、ものごとには『節目』というものがあります。『節目』とは、ものごとの区切りとなる大事なところ。卒業や進級は、『節目』のひとつです。自分やまわりがガラッと変わりそうとき、それが『節目』です。『節目』で悩んだ時、かべにぶつかった時、心が折れそうになった時…そんな時に、上で紹介した3冊の本を読んでほしいのです。これらの本は、あなたが立ち上がるための、知恵と勇気をくれることでしょう。